

平成20年度(2008年度) 建設コストの計画と実績

債務引受額の計画と実績に差が生じた主な理由は以下のとおりです。

(1) 新設・改築事業

付帯事業等の工事が平成21年度以降に残っている事業があること、工事実施上の理由により一部箇所を完成させ供用したが本線工事完成は次年度以降となる区間があること等による。

(2) 修繕事業

工事発注の見直し等により複数年度工期設定としたこと、健全度再点検などにより工事の完了時期を見直したこと等により、機構への帰属を平成21年度以降としているものなどがあることによる。

(3) 災害復旧事業

安全性を考慮し過去の実績をもとに、45年分の額が債務引受限度額として計上されているため、平成20年度は結果的に、台風等による豪雨で被災した箇所の復旧工事を計上したことによる。

[単位:百万円(消費税込み)]

	道路名(区間名)	債務引受限度額(計画)(A)	債務引受額(実績)			(D)-(A)	債務引受限度額と債務引受額の差額についてのコメント
			平成19年度まで(B)	平成20年度(C)	計(D)=(B)+(C)		
西日本 高 速 道 路 網	東九州自動車道 津久見IC～佐伯IC新設事業 13.0km	59,801	574	49,474	50,048	9,752	本線工事は完成し供用を開始しているが、開通後も工事用道路復旧及び事業損失補償等の残事業を引続き実施する必要があること等による。
	中央自動車道西宮線 草津JCT～瀬田東JCT改築事業	2,882	0	1,771	1,771	1,110	本線改築は完了し供用を開始しているが、開通後も付帯工や完成図作成等の残事業を引続き実施する必要があること等による。
	山陽自動車道吹田山口線 山口JCT改築事業	5,791	0	4,094	4,094	1,696	JCT改築は完了し供用を開始しているが、開通後も立入防止柵や事業損失補償等の残事業を引続き実施する必要があること等による。
	四国横断自動車道阿南四万十線 馬立PA～大豊IC改築事業	25,432	16,240	2,203	18,444	6,987	本線改築は完了し供用を開始しているが、開通後も事業損失補償や完成図作成等の残事業を引続き実施する必要があること等による。
	四国横断自動車道阿南四万十線 南国SA～高知IC改築事業	7,964	0	5,767	5,767	2,196	本線外盛土場の変更に伴う土運搬の減、及びトンネル新型照明による設備規模等の減。
	九州縦貫自動車道鹿児島線 みやま柳川IC改築事業	2,161	0	1,498	1,498	662	IC改築は完了し供用を開始しているが、開通後も事業損失補償や完成図作成等の残事業を引続き実施する必要があること等による。
	九州横断自動車道長崎大分線 大分光吉IC改築事業	1,636	0	1,120	1,120	515	設備配置の見直し等による減。
	近畿自動車道松原那智勝浦線 みなべIC～田辺IC新設事業	25,171	19,780	679	20,460	4,710	地山性状良好による掘削費等の減、トンネル新型照明による設備規模の減及び事業損失補償の箇所確定等による。
	近畿自動車道名古屋神戸線 甲南IC新設事業	2,486	0	723	723	1,762	IC改築は完了し供用を開始しているが、開通後も雪水施設関連や完成図作成等の残事業を引続き実施する必要があること等による。
	一般国道1号(第二京阪道路) 阪神高速8号京都線接続部～巨椋池IC新設事業	2,069	1,521	97	1,618	450	環境植栽及び管理用施設基礎構造の見直し等による減。
	中央自動車道西宮線等 平成20年度修繕事業	38,987	-	25,020	25,020	13,967	工事発注の見直しによる複数年度工期設定に伴う機構引渡し時期見直し等による。
	一般国道31号(広島呉道路) 平成20年度修繕事業	160	-	60	60	100	詳細点検の結果、健全度再評価等による補修実施時期の見直しによる。
	一般国道165号及び一般国道166号(南阪奈道路) 平成20年度修繕事業	52	-	30	30	21	詳細点検の結果、健全度再評価等による補修実施時期の見直しによる。
	一般国道201号(八木山バイパス) 平成20年度修繕事業	284	-	7	7	276	詳細点検の結果、健全度再評価等による補修実施時期の見直しによる。
	一般国道506号(那覇空港自動車道(南風原道路)) 平成20年度修繕事業	54	-	52	52	1	無料開放に伴う工事数量等の見直しによる。
	中央自動車道西宮線等 災害復旧事業	30,307	3,767	302	4,069	26,237	災害復旧事業費については、安全性を考慮し、過去の実績をもとに45年分の額を債務引受限度額として設定していた。平成20年度は、H19及びH20梅雨期豪雨で被災した箇所の復旧工事の一部を実施した。

注1) 平成20年度(2008年度)に債務引受けを行ったものについて、継続中事業を含めすべて記載している。なお、[]は、平成20年度に完了している事業である。

注2) 端数処理の関係上、計が合わないことがある。

注3) 修繕事業に関する債務引受限度額(計画)は、平成20年度までの債務引受限度額(計画)の累計から、平成19年度までの債務引受額(実績)を控除している額である。